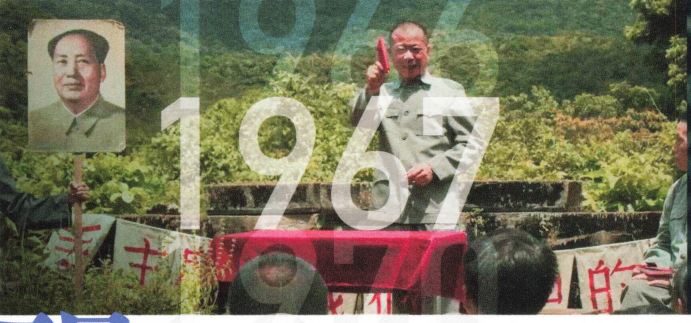
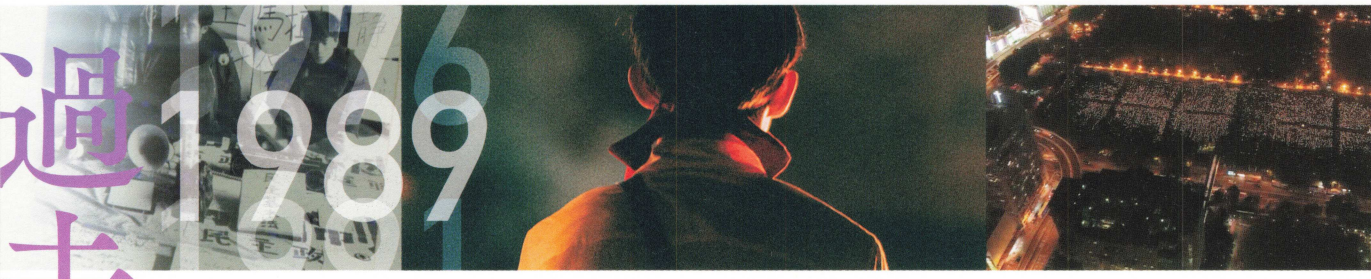


現在、過去、未来

自由を求め続け、彼らが辿った激動の記録
“香港人”としてのアイデンティティ

すべては、彼らが世界と向き合おうとした時期に起きた出来事だった。ある者は文化大革命が起こるくらいならと、香港に向かって横たわる海峡を泳ぎ渡ることを選んだ。また、ある者は学生の自由の要求を支持し天安門広場へと向かったが、戦車と銃弾によって夢と肉体が削ぎ落とされる光景を目撃することになった。そして、ある者は理想の香港を作るため暴動の渦中に向かっていった…。この若き日の熱狂は、時代の移り変わりとともに深い闇の中に埋もれてしまった。しかし、彼らがいかに抵抗したかという記憶は、香港の歴史に残るかけがえのない瞬間の記録と証言であり、市民運動に参加する若者たちへ今でも多くの示唆を与えている。それぞれの世代の葛藤から、未曽有の危機に直面している香港の人々は、何を受け止め、どのような答えを導き出すのか。そして、私たち自身は…。



香港・日本の共同製作により完成！

2014年、香港の若者たちが未来のために立ち上がった“雨傘運動”の79日間を描いた『乱世備忘　僕らの雨傘運動』でチャン・ジーウン監督は、「20年後に信念を失っているのが怖いか？」と出演者に問いかけた。その言葉は監督自身への問いかけでもあったが、運動直後のやる瀬ない思いが憂鬱さとなり島を覆い、想像を超える急激な変化の中で、20年を待つまでもなくチャン監督は自らその問いに答える必要に迫られることとなった。雨傘運動を先導していた者たちが逮捕され、市民が沈黙したことで、この島の民主主義や自由への道のりを、より深く再考しなければと本作の製作を思い立つ。一国二制度が踏みにじられた香港社会は混乱を極め、コロナ禍の影響もあり窮地に陥りながらも、香港が内包する不安と希望を描いた衝撃作『十年』のプロデューサーであるアンドリュー・チョイ、若き政治家の葛藤を描いた『地厚天高』を製作したピーター・ヤムと共に、クラウドファンディングによるたくさんの方の応援もあり、2022年ようやく完成を迎えた。

20世紀後半、“文化大革命”（1966～1976年）“六七暴動”（1967年）“天安門事件”（1989年）と世界を震撼させた事件に遭遇し、激動の歴史を乗り越えてきた記憶。そして現代、香港市民の自由が急速に縮小してゆくなかで、時代を超えて自由を守るために闘う姿をドキュメンタリーとフィクションを駆使してより鮮明に描きだす。この映画は、自由を求めるすべての人々とあなた自身の物語でもある。

「激動香港　市民は何を目指したか」特集（2023/1/11 水～22 日　※1/16 休映）内にて上映

料金：一般 1,800 円／学生、高校生 1,500 円／中学生以下、シニア、障害者手帳をお持ちの方 1,200 円

13（金）、14（土）、15（日）、20（金）、21（土）、22（日）　10：50

11（水）～15（日）、17（火）～22（日）　16：05

恵比寿ガーデンプレイス内
東京都写真美術館ホール
www.topmuseum.jp　TEL: 03(3280)0099

北米最大のドキュメンタリー映画祭 最高賞受賞！
台湾国際ドキュメンタリー映画祭 3冠受賞！

OFFICIAL SELECTION INTERNATIONAL FILM FESTIVAL ROTTERDAM 2022

OFFICIAL SELECTION hotdocs 2022 第29回 カナディアン・ドキュメンタリー国際映画祭 最優秀国際ドキュメンタリー賞

第13回 台湾国際ドキュメンタリー映画祭 アジアビジョンコンペティション 審査員特別賞

第13回 台湾国際ドキュメンタリー映画祭 TIDFビジョナリーアワード グランプリ

第13回 台湾国際ドキュメンタリー映画祭 観客賞

NEW DIRECTORS NEW FILMS 2022 OFFICIAL SELECTION

香港・日本合作ドキュメンタリー

BLUE ISLAND

ブルーアイランド

憂鬱之島

香港、ここで生きていく

監督・編集：チャン・ジーウン『乱世備忘 僕らの雨傘運動』

プロデューサー：（香港）ピーター・ヤム　アンドリュー・チョイ／（日本）小林三四郎　馬奈木厳太郎　撮影：ヤッルイ・シートォウ　音楽：ジャックラム・ホー　ガーション・ウォン　美術：ロッイー・チョイ

字幕：藤原由希　字幕監修：Miss D　製作：Blue Island production　配給：太秦　2022｜香港・日本｜カラー｜DCP｜5.1ch｜97分　©2022 Blue Island project

激動の三時代を生きた、実在する三人の視点が絡み合う
それぞれが求めた“香港人”アイデンティティ

blueisland-movie.com

映倫 R15+ 45315-A